

Course number		U-LAS40 20037 LJ26						
Course title (and course title in English)	学生支援からみた大学生活論 Campus Life and Student Support			Instructor's name, job title, and department of affiliation	Agency for Student Support and Disability Resources Senior Lecturer, WADA RYUUTA			
					Agency for Student Support and Disability Resources Associate Professor, NAKAGAWA JIYUNKO			
Group		Health and Sports		Field(Classification)		Health and Sports Sciences(Development)		
Language of instruction	Japanese			Old group	Group A		Number of credits	2
Number of weekly time blocks	1	Class style	Lecture (Face-to-face course)		Year/semesters	2025・First semester		
Days and periods	Mon.2		Target year	All students		Eligible students	For all majors	
[Overview and purpose of the course]								
<p>充実した大学生活を送りづらい自分や他者を発見したとき、私たちはどう考え、行動したら良いのだろうか。悪循環を避け、多少なりともよりよい人間関係を築き、社会に働きかけていくため、学生支援の現場から浮き彫りにされる学生生活の多様な課題を提示・検討したい。学生生活への実地的な示唆をなるべく含んだ講義を行いたい。</p>								
[Course objectives]								
<p>日常の大学生活に起きるさまざまな体験や困難さに向き合い、主観的にも客観的にもとらえてみる視点をもてるようになり、自身や他者、社会への理解を深める。 大学生なりの自立した生活を構築していくとともに、それが困難な場合、援助を適切な対象に求めることができるようになる。また、他者との関係性や適切な支援のあり方も考慮できるようになる。</p>								
[Course schedule and contents]								
<p>4人の講師によるリレー講義。それぞれの講師の興味・経験・個性を背景として、提示したテーマに沿った講義を行う。全体でアカデミックカレンダーを超えない範囲で、フィードバックを含めた全15回の授業で、各テーマにつき3~4回程度の講義を行う予定。各講師のテーマと、そこに含まれるサブテーマは以下のとおり。なお、担当者によって、ディスカッションや個々に発言を求めることがある。</p>								
<p>1 (和田) 自己・他者・社会について考える (3~4回) 大学生活の中では、自分自身や自分以外の人、さらにはより広い社会について考えたり、時に直面せざるをえないことが起こることもある。そうしたことにどう向き合い、折り合いをつけていけるか、「大人になること」や「自己と他者との関係」などから考える。</p>								
<p>2 (村田) 障害を問い、多様性を考える (3~4回) 社会には多様な個が存在する。大学生活をおくることも、その社会のなかでの出来事である。多くの個性が交わる大学という時間と空間において、障害という切り口から、他者、そして、自己の尊重を考える。</p>								
<p>3 (中川) キャンパス・ハラスメントを考える(3~4回) 大学の日常生活の延長でキャンパス・ハラスメントに遭う、あるいはしてしまう可能性をネット、</p>								
Continue to 学生支援からみた大学生活論(2)								

学生支援からみた大学生活論(2)

エロス、パワーの局面で心理的に考察する。

4 (梁瀬) 大学生の心身の健康を考える (3~4回)

新しい環境におかれる大学生活では、様々な健康上の問題が起こる可能性がある。ストレスが心身の健康に与える影響や、日本人学生・留学生問わず、大学生においてみられやすい健康上の問題について学び、自身や他者の援助・支援に役立つ具体的な方策を考える。

[Course requirements]

None

[Evaluation methods and policy]

各講師が扱うテーマごとに課す小レポート計4回。4回中3回以上の提出を必要条件とする。4回の評価の平均を基本として総合的に判断する。

課題に真剣に向き合っていることが伝わる表現ができているレポートは、高評価になりうる。

[Textbooks]

Not used

[References, etc.]

(References, etc.)

Introduced during class

[Study outside of class (preparation and review)]

講義中に紹介する参考書は、決して全部とは言わないが、興味を持たれたものについてぜひ読んでみることをお勧めする。

[Other information (office hours, etc.)]

受講希望者が多数の場合、教室収容定員に合わせて受講制限を行う場合がある。